

羅 針 盤			方 策	点検・評価		達成度	達成状況の分析	学校関係者評価	次年度の課題	
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等					総合
I 幼児児童生徒の地域における豊かな生活の実現に向けて努めていますか。	1 保護者、地域、関係機関に学校の教育活動について、具体的に伝えていきますか。	○Tayo通信や学部だより、学校Webページ等から「学校の様子がよく分かる」と90%以上の保護者が評価している。	小学部主事 中学部主事 情報部	○Webページの更新がスムーズに行われるような校内全体のシステム作りを努める。	A	B	B	○保護者、校内アンケートともに通信等を通して、子どもの学校での様子がよく分かるとの評価を得た。	○写真の多いお便りは保護者はうれしいと思うが、先生方は忙しいので時間を見ながらの発信でいいのではないかと。総合評価は満足した。	○地域の方々には校内のボランティア活動等に参加してもらい機会を設け、本校の教育活動への理解を促す。
		○授業参観や学校行事、PTA活動等に「参加しやすい」と90%以上の保護者が評価している。	教務部 渉外部	○保護者が参加する行事やPTA活動について参加しやすいように見直ししたり、精選したりする。 ○学部や専門部会での保護者の意見を毎学期集約し、関係者が参加しやすい学校行事やPTA活動の内容の改善を行う。	A	A	A	○参加率の高いものとなり、学校評価の数値も高かった。授業内容に対するご意見をいただいたので、次年度から意識して内容決定するよう、職員間で周知を図る。	○外部の人に学校の子どもたちのことを知ってもらう必要があると思うので、今後も継続した取り組みをお願いしたい。	○PTA総会を書面開催とし、授業参観と懇談会を中心とした日程に変更し、保護者の来校を促す。
	2 保護者、地域、関係機関との共通理解が深まり、有効な支援が行われていますか。	○個別面談や日頃の相談等の内容に応じて、「適切に関係機関と連携している」と80%以上の保護者が評価している。	小学部主事 中学部主事	○児童生徒一人一人の関係機関を丁寧に把握する。 ○必要に応じて、児童生徒の指導支援について関係機関と話し合いの場を設けるようにする。	B	A	B	○保護者アンケートからは相談等の内容に対して適切に対応しているとの評価を得た。面談時に児童生徒一人一人の関係機関や相談員の有無を確認し、学校全体で把握できるよう、一覧表にまとめた。	○個別面談や日頃の連絡帳等で詳しく学校での様子を伝えてもらっているため、学校の指導への不安や不満は何もない。保護者の中には家庭でやるべきことも学校に求めすぎている保護者もいるのではないかと感じる。	○保護者アンケートから、放課後等デイサービスや相談員等、関係機関との連携をより強化してほしいという一部の意見があった。連携のための会議等の設定を学校側からも提案していく。
		○交流及び共同学習について、保護者や地域、関係機関の90%以上が満足している。	学習指導部 交流係	○学校間交流では、相手校に事前に講話を実施したり、情報交換を密に取ったりしながら有効な交流となるようにする。交流の意義について再確認し、継続して交流できるようにする。 ○居住地域交流では、相手校と交流のポイントについて十分な打ち合わせをもとに実施し、成果等を保護者を含め共有する。	A	A	A	○校内アンケートでは、交流の内容について高い評価を得た。学校間交流では、相手校と事前の打ち合わせを密に行い、充実した交流を実施することができた。	○居住地域交流は受け入れる学校の児童生徒にとっても大変有意義であるため、さらに活発に活動を進めていけるように。また、ただやるのではなく、事前の情報交換なども大事である。	○校内アンケートから、交流及び共同学習は必要ないと思っている保護者が多いと感じるという意見があった。保護者向けのパンフレットを作成・配布したり、個別面談で交流についての話題を取り上げたりする。
II 地域の特別支援に関するセンター的な役割を果たしていますか。	3 障害のある幼児児童生徒の教育について、助言援助に努めていますか。	○外部の幼児児童生徒等に対する相談に園や学校に向いたり、電話や来所による相談に対応したりして、相談者の90%以上が有益であったと評価している。	地域支援部	○案内配布とHP掲示により啓発に努め、迅速に訪問相談を実施する。必要に応じてその後も情報共有を継続していく。	A		A	○4月下旬の案内配布後、迅速に日程を調整して、園や学校を訪問した。特別支援学級の相談では、担任のニーズに合わせて自立活動や合理的配慮に関する資料の紹介、具体的な支援策の提案をしてきた。園訪問では対象児のできること・長所等に着目し、プラスの言葉かけを意識した伝え方を心がけてきた。	○入学前に保護者として学校見学をしたが、就学希望を提出する際にお願した経緯がある。保育園やこども園に通う保護者に広く周知してほしい。ポップなチラシがあるとよい。	○訪問相談の依頼に際し、有意義な相談になるように対象人数や相談時間の調整していく。ニーズに合わせて必要ときには再訪問できることを伝えていく。特別支援学級運営の相談は管理職との情報共有の機会を設けていく。
		○年間6日実施の学校見学、3日実施の学校参観の受け入れ人数を増やすとともに、個別でも学校見学の希望者を受け入れ、90%以上の参加者が満足と評価している。	地域支援部	○参観者の好意的な意見等を発信し、学校全体で参観者を受け入れる雰囲気づくりを心がける。	A	A	A	○学校見学の保護者アンケートでは、95%以上が満足という結果であった。職員と児童生徒の関わり、雰囲気等について好意的な感想の記述が多数あった。個別見学にも適宜対応してきたが、例年になく件数が多かった。		○担当者が協力し、早めに準備を進めていく。学校見学、学校参観の日時と対象者を学校全体に周知し、職員が抵抗感なく日頃の実践の様子を参観者に公開してもらえるように配慮する。
III 幼児児童生徒一人一人の実態に応じた適切な指導を行っていますか。	4 個に応じたきめ細かな指導を行っていますか。	○児童生徒の実態に応じて、学習内容を精選したり、写真や身振り等の視覚支援ツールを活用したりするなどして、効果的な指導を行っているとして75%以上の保護者と職員が評価している。	学習指導部	○授業内容や支援方法などについて、振り返り検討し、改善していく。また、ICT教材を活用し、教材を共有したり、指導支援方法を共有する。	A	A	A	○保護者、職員アンケート共に、高い評価を得られた。また、教務部の情報管理係の協力もあり、職員間でICT教材の共有もできた。	○ICTを活用した視覚支援は特別支援学校の子どもだけでなく、通常級の子どものためにも分かりやすい。ICT教材の研修等も行っており素晴らしい。	○今後も、児童生徒の視点に立って、「何を学ぶか」「どう学ぶか」など学習内容を具体的に考えていく。
		○学校いじめ防止基本方針等に基づいた本校の取り組みが、実際にいじめの未然防止や早期発見・早期対応につながっていると80%以上の保護者と職員が評価している。	生徒指導部	○いじめ防止対策委員会を定期開催する。必要に応じて、臨時開催も検討する。 ○学校生活アンケートを各学期に一回実施し、職員全体で指導支援につなげる。	B		B	○いじめ防止対策委員会の定期開催や日常的な情報共有を通して、組織的な対応体制を整備することができ、未然防止や早期対応につながる取組を概ね機能させることができた。		○いじめに関する設問をアンケートに加え、取組の効果を客観的に把握するとともに、職員間の情報共有を通して、いじめの未然防止・早期発見・早期対応の体制のさらなる充実を図る。
	5 指導内容の確実な定着を図る授業が行われていますか。	学習指導部	○児童生徒の目標を達成できるような授業づくりを行っているとして75%以上の保護者と職員が評価している。	学習指導部	○指導の形態ごとに、個別の指導計画、年間指導計画に基づき、授業づくりを行う。	A	A	A	○保護者、職員アンケート共に、高い評価を得られた。職員間で、児童生徒の個別の指導計画の目標を確認しながら授業を実施することができた。	○ICT教育についての研修等、どう学ぶかについての教師の学びが進んでいると感じる。また内部講師ということで、後で確認できたり、教師自身の強みの確認、同僚同士の理解が進む。ぜひ継続していきべきだ。
		○校内研修や各自で受講した研修等を児童生徒の実態に合わせた教材づくりや指導等の工夫に生かしていると80%以上の教員が評価している。	研修部	○校内研修に意欲的に取り組めるように、研修係が研修を企画し、各係と連携しながら計画的に実施する。 ○外部の研修案内や資料を周知し、職員が研修に参加しやすい環境を整える。	A	A	A	○職員アンケートで高い評価を得られた。		○研修で学んだことや気づいたことを本校の強みとして積み上げていく。
IV 健康や安全の確保に努めていますか。	6 健康に関する配慮や対応を適切に行っていますか。	○児童生徒一人一人の健康習慣の確立に向けた支援や対応について、80%以上の保護者が満足と評価している。	保健給食部	○毎月の保健目標を職員で共通理解し、指導に生かす。 ○通信や保健便りなどを通して、保護者に定期的に情報提供を行う。	A	A	A	○保護者アンケートでは形式について評価を得た。	○保健だよりなどにはタイムリーな話が入っているが、どれだけの保護者が見ているか心配。 ○体調の悪い時などは、電話で詳しく情報を伝えてくれるので、安心。	○健康課題の改善を目指し、指導方法を具体的に考えていく。
	7 危機管理体制が確立され、緊急時への備えができていますか。	安全管理部	○訓練後に課題が明確になり、次回に向けた改善策が立てられていると80%以上の職員が評価している。	安全管理部	○昨年度の改善点については、実施前に再確認し、訓練を実施する。 ○訓練終了後にアンケートを実施し、課題点を集約し、改善策を検討し、それをもとに次回の訓練に生かす。	A	A	A	○職員アンケートで高い評価を得られた。	○避難訓練は、いざというときに対応できることが重要であり、本校の避難訓練は必要な分だけ実施できていると思う。
V 将来の生き方に結びつく進路指導を行っていますか。	8 キャリア教育の視点から、指導内容を整理して系統的な指導を行っていますか。	○キャリアパスポートは、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価できるように、有効的に活用されていると85%以上の保護者と職員が評価している。	進路指導部	○キャリアパスポートの作成について、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価できるように、児童生徒の発達段階や生活年齢に応じて作成する。	A	A	A	○新しい形式での実施となり、保護者、職員アンケート共に高い評価を得た。児童生徒の発達段階や実態に応じて内容を調整し、活用しやすい形でキャリアパスポートを作成することができた。	○キャリアパスポートについて、見える化というのはとても大事。書くことで先を見通せる。振り返れる、立ち返れる。内容も具体的に、力が育っていると感じた。	○作成したキャリアパスポートを活用する時間や手立てを具体的に考えていく。
		9 保護者、関係機関との連携のもとに発達段階に応じた進路指導を行っていますか。	進路指導部	○学校は児童生徒の発達段階に応じて関係機関の情報提供を行いながら、将来の生活に向けた進路指導を行っているとして85%以上の保護者が評価している。	進路指導部	○保護者向けに高等部(高等特別支援学校)の職員や就労施設の職員による講話を設定したり、中学部において進路選択の関心を高める授業を行った上で、卒業後の生活についての理解を深める情報提供を行う。	A	A	A	○保護者アンケートでは、進路講演会で卒後の進路選択に向けた適切な情報提供がされていると評価を得た。進路通信を発行し、就労社会体験や講演会の内容を保護者や職員に共有することができた。